令和7年度第2回横須賀市市民協働審議会 議事概要

日時：令和7年(2025年)6月30日(月)

10時～12時35分

場所：災害対策本部室

【出席委員】 志村委員、手塚委員、石塚委員、岩堀委員、小串委員、工藤委員、
佐野委員、富野委員、中島委員、原委員

【欠席委員】 小山委員

【事務局】 地域支援部 鵜飼部長、荒井課長、山岸主査、松本主任、加藤主任

【傍聴者】 1名

<配付資料>

- 資料1-1 市民活動サポートセンターの概要
- 資料1-2 横須賀市立市民活動サポートセンター令和6年度事業報告
- 資料1-3 横須賀市立市民活動サポートセンター令和7年度事業方針計画
- 資料2 市民協働推進補助金・市民協働モデル事業 令和6年度活動報告会概要
- 資料3-1 市民公益活動団体支援広報紙の企画構成について
- 資料3-2 市民公益活動団体支援広報紙掲載団体の選定基準について
- 資料3-3 市民公益活動団体支援広報紙掲載団体選定用紙【非公開】
- 資料4-1 特定非営利活動法人補助金制度について【非公開】
- 資料4-2 「特定非営利活動法人補助金」交付決定までの流れ【非公開】
- 資料4-3 特定非営利活動法人補助金 事前審査結果一覧・本審査結果記入用紙【非公開】
- 資料4-4 令和7年度 特定非営利活動法人補助金 応募書類【非公開】
- 資料4-5 令和7年度 特定非営利活動法人補助金応募企画に対する関係課の参考意見一覧【非公開】
- 参考資料 令和7年度 特定非営利活動法人補助金事前確認事項に対する回答一覧【非公開】

<議事内容>

1 開 会

会議の成立。(委員11名中、10名出席のため、会議は成立。)

会議資料の確認。

審議事項「特定非営利活動法人補助金の審査について」は、審議会意思決定の中立性及び公正な審議を確保するため、情報公開条例の規定に基づき非公開とすることについて、出席した全委員の承認を得て決定。

2 諮問

鵜飼部長から、市民協働審議会委員長（志村 直愛氏）に諮問書を手交した。

3 報告事項

（1）市民活動サポートセンター指定管理者事業報告について

事務局 （資料1-1を説明）

指定管理者 （資料1-2を説明）

委員 資料2頁の利用者アンケートについて、ご意見103件、ご要望9件とのことだが、要望というのはどのようなものがあるのか。

指定管理者 要望は施設管理に伴うものがある。女子トイレに消音の機械がなかったの
で、設置して欲しいというようなご要望や、年度末に紙コップ式の自動販
売機が撤去されたので、それに対するご意見、また大きなところでは情報
発信のための掲示について、現在3か月という期間を設けているが、6か
月あるいは1年程度の期間にして欲しいというようなご要望があった。こ
れに対しては、多くの団体に利用してほしいこと、また、情報を定期的に
刷新して掲示していただく方法もあるかと回答させていただいた。

委員 こちらについては、HPにも掲載があるとのことだが、自分ではうまく見
つけられなかったの、お伺いさせていただいた。

活動が多岐に渡り、それに対する意見や要望もさまざまかと思うが、引き
続き頑張ってください。

委員長 2頁の、各種相談業務について、窓口での相談対応の内容について、一番
上に「市内各種情報、周辺観光情報の提供」とあるが、実際にこのような
相談があるのか。

指定管理者 ドブ板通りが近いので、観光に訪れた方が汐入駅からドブ板通りまで来ら
れる際に、観光情報についての問合せに立ち寄られることがある。また、
総合福祉会館でのイベントの際に、施設の案内などをさせていただくこと
もある。

委員 自分たちの団体も、毎月利用させていただいている。いつ訪れても明るく
賑やかで、沢山の方たちに利用され盛り上がり、市民活動の活気を感じ
る。

委員 自分もよく利用させていただいている。

1頁の最初の利用者数の推移について、コロナ禍からは戻ってきていると
のことであった。ただ、コロナ前に比べるとニューノーマルな様式になっ
ているとのことであったが、それは具体的にどのような事か。

指定管理者 お配りした資料の中にはないが、実は18～19年度は参加人数、利用者数が

48,000人ほどであった。19年にコロナ禍となり、20年は閉館期間が生じ開館期間は7か月程であったため、14,000人という数となった。コロナ禍前の水準と比べた時の要因として、ひとつは夜間の利用者減かと考えている。コロナ禍を機にオンラインミーティングが発達し、実際に集合しなくても話し合い等ができるようになったため、この時間の利用者減に繋がったかと考察している。

この部分については、しっかりアンケートをとり検証する必要があるので、しばらくお時間をいただければと思う。

委員長

確かに、コロナ禍を機に、オンラインミーティングの利用が増えたかと思う。利用者数の推移、現在まだコロナ禍前に戻ってはいないとのことではあるが、数に縛られ過ぎずに、より良いサービスを提供していただけたらと思う。

6頁、市民活動の場の創出のなかで、夏のボランティア・市民活動体験というのがあって、大学生の参加を推進するということだが、大学の先生としてはこのような機会が横須賀はちゃんと用意されているというのが羨ましい。参加数について、大学生は何年生が何人くらいか、わかれば知りたい。

指定管理者

そこまで精査できておらず、回答が難しい。

委員長

大学生といえばだいたい、3年生ともなると就活があるので動きやすく、専門的に学ぶとなると1年生ではまだそこまではいかず、タイミングが難しかったりもするが、実はこういった学びの場があるのは大変貴重である。ただ、こういった機会が日々の活動に繋がることも大事なのでキャリアの一環として、何かその先に自分の仕事を探していくような機会に結び付けていくと、さらに参加者が増えるのかと思う。

交流や意見交換の場に来るのが、最近は大人より学生が多いので、こういった機会から始めていただけたらと思う。

委員

毎年、夏のボランティア体験に応募すると1～2人来ていただける。昨年も8月末までの期間を9月15日まで延長していただいたので、その期間に私達の団体のところへ大学生の参加があった。それをきっかけに、その学生は現在2年生になったが学校がお休みの時は来てくれたりなど、交流を続けている。それ以前にも交流が続いた学生がおり、現在市役所に就職したとのことで先ほど職場を訪れた。活動が良い循環となり、縁が繋がっているというのは良い。

指定管理者

期間延長についてはそのように反響もあるので、今年度も9月まで延ばす予定である。また、県立保健福祉大学の先生も、委員長のご意見と同じようなこととお話されていた。学生は大学の中で学べないことを地域で学ぶことができ、地域への貢献活動にもなる。地域の皆様が学生を育てるところもあるので、先日の大学での説明会ではその趣旨をお話しし、協

力のお願いにあたったところである。地域や団体と、そして大学とで良い関係を継続していきたい。

委員長 自分の大学は遠方なので、ここに参加するのは難しいが、このような取り組みが地域にあると良いと思う。おそらくではあるが、県立保健福祉大学、関東学院大学をはじめいろいろな大学が近隣にあるなかで、さまざまな専門を学んでいる生徒がおり、市民活動サポートセンターで活動している皆さんの活動分野と、それぞれの大学での研究テーマが合致すると、とても良い成果を生み、関係が築ければ活動も継続する。近隣の各大学の学長ともそのように関係を築きながら、良い関係を続けていただけたらと思う。

指定管理者 (資料1-3を説明)

委員 チャイルドファクトリーはとても良い取り組みかと思う。高校生・大学生へ向けた取り組みは沢山あるが、義務教育期間の子供たちに向けたアプローチというのは教育委員会との絡みもありなかなか難しい。PTAとどのような繋がりを維持しながら活動をしているのか興味がある。

指定管理者 きっかけは商工会議所も含めた1人の方から、子供達を支援したいので、市民活動団体にサポートをいただけないか、というところであった。その方が当時PTAの副会長で、企画運営をされているので、そのなかで何か協働できることがないかと、話を進めているところである。

委員 団体側から義務教育中の子供達へのアプローチは、学校現場側の受け入れ体制が整っていないとなかなか大変である。なので、商工会議所を通じて受け入れ、受けた側の団体としてしっかり動いていただくと、良い流れで進んでいくかと思うので、ぜひ頑張ってください。

委員長 なかなか教育委員会は固い扉の向こうにあって、こちらからアプローチしても難しいことがあるが、サポートセンターだからできる特徴もあるかと思うので、上手に信頼関係を築いて活動を継続されているという意味ではとても重要な役割を果たされているなというように感じた。

(2) 市民協働推進補助金・市民協働モデル事業 令和6年度活動報告会概要について

事務局 (資料2を説明)

委員 昨年傍聴させていただいたが、こちらの傍聴は可能か。

事務局 コメンテーターとしてご出席いただくのは委員の3名だが、公開で行うので参加はどなたでも可能である。

委員 こちらの審議会で審査会のコメントなどを聞いているが、実際の活動の様子などはよく分からない部分もあるので、沢山の団体が補助金の活動をされているなかで様子を知るにはこれが一番良い。調整し、できるだけ参加したいと思う。

委員長 審査会は、審査の場であるので、緊張が走る場面もあるが、報告会につい

ては各団体からの成果実績をご報告いただき、結構楽しく行っている。以前は市の会議室等で開催されていたが、近年は市民活動サポートセンターで行うことになり、普段市民活動をされている方々などはよく行くところで報告の様子を聞くことができるのでとても良いと思う。

委員の皆様も、平日の日中なのでお忙しいところかもしれないが、もしご都合がつくようなら是非いらしていただけたらと思う。

こちら、報道機関も来ていただくことがある。審査とは違って活動実績の報告なので、補助金を使ってこんな活動ができるとか、若い人たちが集まって頑張っているという部分が、よく見える。

そういった意味ではこの報告会は、横須賀の市民活動をオフィシャルに発信する機会としては唯一で一番大きい催しかと思う。報道機関に加え、市においても報告の様子を動画で撮影し、来れなかった人でもHPや配信等で見るができるようにしたり、市民活動サポートセンターで動画を預かり希望する方にお見せするなどして、活かせると良いと思う。

事務局 昨年度から、動画の撮影をしている。その動画は市民活動サポートセンターにあり、希望の方は視聴可能である。引き続き対応していく。

委員長 この動画だが、見たいという要望はあるのか。

指定管理者 そういった申出は今のところない。

委員長 これから増えていく事を期待する。視聴者数についても、動画についてどのような意味や価値があるのかというアピール次第かと思う。審査により交付されているといった、お墨付きの部分が結構大事なので、メディアに対しても、上手に告知できると良い。

委員 現在市役所の1階にパネル展示が行われているが、この報告の一環か。

事務局 パネル展示については、市役所での展示は先週で終わってしまい、今週からは市民活動サポートセンターに移っている。

委員 市役所の入口に展示されていたのだが、建物に入りすぐの場所なので人目につきやすく、写真入りで大きく取り上げられているので、是非委員の皆様さんにもそういった情報をご紹介いただきたい。

4 協議事項

市民公益活動団体支援広報紙の企画構成・団体選定基準について

事務局 (資料3-1、3-2を説明)

事務局 市としての想いも含め補足をさせていただく。今年度、新たな取り組みとして始める事業に対し、様々なご意見をいただいた。今回の案についても様々なご意見をいただくかと思うが、まずは一步踏み出したい。

掲載団体数を多くしたいという声については、ある程度絞って掲載していくことで、まずは手に取って読んでいただけるものを発行したい。また今

後、例えばだが子供達向けの号を発行したり、今回お示しした掲載基準以外で、公募枠を設けることなども検討していかれたらと思っている。

まずは手始めに発行し、発行後も、引き続きご意見をいただきながらより良いものにしていかれたらと考えている。

委員長

前回までの意見をもとに、そもそもの趣旨や、広報紙のコンセプトなど、軸となる部分については、本日決定していく形になる。

掲載コーナーやタイトルなどの話になってくると、紙面のイメージがかなり具体的になってくるのではないかな。また、掲載団体を選定するにあたり魅力の基準案を事務局から提示していただいた。本日は、この後に続く非公開審議事項のなかで団体の選定を行うが、趣旨やコンセプト、選定基準というのはこの後の団体選定にも影響するのでしっかり確認していきたい。何か、この資料に示されていること以外でも、ご意見があればお伺いしたい。できることから絞り込んでまずは始めてみて、その先に必要に応じて紙面の改善をしていかれたらと思う。

軸やコンセプトが確認できたら、広報紙タイトルも決定してていかれたら思うがいかがかな。

委員

タイトル案を並べたときに、ヨコラボレーションやヨコトピなど、市外の方からすると「ヨコ」はどうしても横浜のイメージも湧きやすいのではないかな。横須賀市民はそうではない、という認識であれば、それはそれで受け取るが、以前他市で「スカッ」というワードに対し、スカは「横須賀」だという声があったので、少し気になった。「ヨコ」ではなく「スカ」の方を残すという考え方もあるかなと思う。

委員長

横浜・横須賀とあると、なんとなくスカの方が確実に横須賀のような気がする。

横須賀線も、我々は「スカ線」と呼ぶ。

委員

おっしゃる通り、ヨコは横浜というイメージもついてしまう。横須賀は、スカジャンなど、スカの方をとるのが多い印象。個人的は、「市民協働」という直球の文字を入れたい。

委員

今のご意見を聞きながらロゴをイメージしてみた。協働の道だと、なんとなく毛筆で書いたようなロゴのイメージが王道のような感じで浮かぶ。ヨコスカリンクだと、デザインがいろいろ浮かぶ。デザインの幅が多いのはヨコスカリンクかなと思った。

委員

ベテラン年齢層からだと、横文字ばかりはどうもわかりにくく、イメージが湧かない。沢山の人に見ていただくとなった時に、ヨコスカリンクは非常にスムーズに頭に入る。全体の結びつきという意味で、そういったものを目指しているということがわかるので、自分も第一印象としてはヨコスカリンクが良いかなと思った。

横須賀のスカの部分を生かしてというご意見もあったが、スカ〇〇という

と、個人的には軽いイメージがついてしまい、シニア層からするとしっかりした読み物でないような印象がついてしまうのではないかと思う。

あくまでも、個人的な意見である。

委員長

ヨコスカリンクであれば、若い方は「スカリン」と略すのではないか。「スカ○○」と間をとった感じで省略もできる

またスカリンは横須賀市の公式マスコットである。

委員

私も、ヨコスカリンクが良いなと思った。岩堀委員が先ほどお話されたように、ヨコスカリンクとしながらも、サブタイトルに市民協働通信など、何の広報なのか一目瞭然となるものをつければ良いのかなと思った。

また、選定基準について、この審議会の中だけで構わないので、例えば課題解決力で地域の課題に向き合っているかどうか確認する際に、この示し方だけだとおそらく全団体が何かしらの課題に向き合っている形になってしまうのではないか。課題というのは人口減少なのか、高齢化なのか、そのあたりは共通認識になっていかないのか、もう少し具体的に示さないとここに対しての評価ができないのではないか。

実績についても、ある程度とあるが、ある程度とはどのくらいの期間なのか。3年なのか5年なのか、人によってとらえ方も違うので、基準についてはもう少し具体性を持たせた方が良いかと思う。

委員長

たしかに、少し曖昧的な表現にはなっている。

とりあえず一度、このような形で進めていきながら、基準の具体性についてもご意見をいただき、何度か行うにつれ精度もあがっていくかと思う。

一方で、先ほどの市民協働通信というように一目瞭然なサブタイトルを入れるというご意見があったが、確かに説明は必要かもしれない。ヨコスカリンクはスケートリンクではないし、そういった意味では、何かしらわかるサブタイトルがあると手に取るときにわかりやすい。

また、今タイトル案についてご意見が盛り上がっているが、掲載内容やターゲット、またイベントの中身など、何かご意見あるか。

委員

気になったのが、各号ごとにテーマを設けるとあるが、どのようなテーマを選ぶのか。課題なのか、活動の軸のようなところか、あるいは地域性などか。今回、団体を選定するにあたって、テーマはどこに持っていったら良いのか。

事務局

今回、第一号ということで、そもそものテーマから、どのような形にするか市民活動サポートセンターと相談し、考えた。このあと、非公開で行う選定においてご説明させていただく予定であったが、軸としてこのような形で進めるということであれば、普段、やはりなかなか目立たない、メディアには取り上げられないといったところを行政が広報する意味というのが、大きくあるかと思っている。また、それこそが行政で行う強みかとも思っている。子供への活動や、福祉の活動、たとえばこども食堂などは他

のメディアにも取り上げられやすいと市民活動サポートセンターからお聞きしたので、今回はそういったところではなく、あまり注目されない文化や環境保全の活動を行う団体、まちづくりの活動を行う団体などから選定していけたらと考えている。

テーマについては、そのような形で、毎回「課題を取り上げる」とか「活動の分野でスポットをあてる」などかっちり固めてはいないが、各号における団体選定や紙面構成のプロセスとして、テーマを設けることと考えている。

委員 掲載団体が4団体あり、1団体とその他3団体に分けているのは、何か意味があるのか。掲載コーナー案からも、主役と舞台裏とあるので、そのような区分か。

事務局 例えばだが、メインとそれ以外など、順位や大きな差をつけるようなことはあまり考えてはいない。だが、紙面のトップページを飾るのと、中に閉じられているページに掲載されるのとでは、やはり印象が違ってくると思うので、区分している。

委員 ちなみに、そのチョイスはどのように行っていくのか。

事務局 例えば、この後の選定のなかで、各項目ごとに該当の有無を確認して該当項目数を確認するときに、その数が多い順に決まってくるのかなと思う。

委員 主役と舞台裏だと、だいぶ印象が違うなと思った。

委員長 ちなみにだが、紙面の面積も違ってくるのか。

事務局 全6ページあり、各団体1ページずつとれるように現在想定しているので、紙面の面積については、そこまで変わらないかと考えている。もしかしたらだが、実はトップページがタイトルロゴなどが入る関係で、記事のボリュームは少し少なくなってしまう可能性もある。そのあたりについては、実際にインタビューを行ってくださる事業者が決定してから調整をしていくので、現時点では紙面の細かい配分などは決まっていない。ただ、取り上げる4団体は、できれば同じように取り上げていきたいとは考えている。紙面スペースや取り上げ方にあまり差がないのであれば、記事についても均等にして掲載できると良いかと思う。

発行記念イベントの開催について書かれていた。

これに関して、先ほどの補助金報告会の議事の際に発言すれば良かったが、市民協働推進補助金・モデル事業活動報告会が終わった後に、団体さん同士が少し交流できる場があると良いという声がある。

実は以前に2回ほど開催されたのだが、活動報告会では審査の場とは違い、コメンテーターとして我々も控えていて、発表の場が終わった後もそれぞれ団体が言い足りなかったことや聞きたかったことなど楽しくお喋りをして、時間としては15分程度であったかと思うが、その時間も含めてこの交流というのが次の活動のきっかけを作ったりなど、大事な時間になる場合

がある。

今年は8月8日に開催される予定なので、本当はこの日に発行イベントの予定が合わせられればベストだが、発行までには間に合わないかと思う。

ただ、そのような複合的なイベントがあっても良いかと思った。

そして、審議会の委員と団体と、何か交流する機会などがあると良いかなと思った。

委員長 広報紙発行についての企画構成などについては、ご意見が出尽くしたということによろしいかと思う。

また、タイトルとしては「YokosukaLink」とし、手に取った際に誰もが市民協働に関する広報紙だとわかるようなサブタイトルをつけることとしてよろしいか。

全委員 (意義なし)

5 その他（連絡事項）

志村委員長から、「地方税法第314条の7第1項第4号の規定により控除対象となる寄附金を行き入れる特定非営利活動法人を指定するための基準及び手続を定める条例」第3条及び第9条の規定に基づく申し出について、相談状況の報告及び今後のNPO法人条例指定専門部会への諮問・付託について連絡。

また、事務局から次回の審議会の開催予定及び市民公益活動人材育成研修受講奨励金制度についての周知等に関する事務連絡。

6 審議事項

(1) 市民公益活動団体支援広報紙掲載団体の選定について 【非公開】

(2) 特定非営利活動法人の審査について 【非公開】

審議の結果については後日、各団体へのコメント等を委員長調整のうえ、答申。

7 閉 会